

日時 2025年6月3日(火)

場所 野毛山キリストの教会 礼拝堂

テーマ 「子どもの声を聴けていますか？」

～子どもの笑顔あふれる社会に向けて～

講師 甲斐田 万智子先生



去る6月3日、甲斐田万智子先生をお招きして、教育館にて講演会を開催いたしました。野毛山幼稚園の大切にしたい5つの心の中の(コルチャック先生の心)「子どもは、未来ではなく、今を生きる存在である」という視点をもとに、子どもの声に耳を傾け聴くことの大切さや、子育ての中での関わり方についてお話をいただきました。今、この瞬間の子どもをどう支え、受け止めていくのか、子どもの権利を日々の関わりの中でどのように実現していくのかを考える貴重な学びの時間となりました。

講演では、グループでカルタを通して子どもの権利条約を分かりやすく学び、それぞれ印象に残ったカルタについて思いを共有しました。

参加された皆さんの最も印象に残ったカルタ、その思いについてご紹介いたします。

参加43名



### 甲斐田万智子先生 プロフィール

認定 NPO 法人国際子ども権利センター (C-Rights) 代表理事。広げよう！子どもの権利条約キャンペーン共同代表。子どもの権利条約総合研究所理事・運営委員。文京学院大学・立教大学講師。著書『毎日つかえる子どもの権利』(アルパカ)、監修『きみがきみらしく生きるための子どもの権利』(KADOKAWA)、編著『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』(合同出版)、共著『こども基本法 こどもガイドブック』(子どもの未来社)、監修『世界の子どもの権利かるた』(合同出

(まとめ・データ入力 すずらん組 藤平恭子)

## 子どもの権利条約 カルタを通して

### ① 最も印象的だったカルタ

ありのままの自分をみとめ見てほしい

- ・まわりのおとなにとって良い都合が良い子どもにならず、自分らしく自分のことを信じてほしいから。
- ・オーストラリア人と日本人の両親を持つ姪が日本の学校に入学して、上手く言葉や日本の習慣になじまず悩んでいた時にした声かけ。
- ・だって世界にたったひとり人の私だから。

えらぶ自由 子どもにだってある

- ・親の良い方に誘導してしまう発言をしてしまう時があるので、子どもの気持ちをいつでも尊重したい。

がつこうに行きたくないときもあるそれは悪いことじゃない

- ・学校に行かないことは良くないと思いがち。休むのはうしろめたい。そんなことはないのだなと思えました。

うまれた国でもてるはずの国籍 どうしてもてない子がいるの？

- ・なぜか気になるから。

おとなと子どもどっちが上でも下でもないよね

- ・子どものため、教育のためと思っただけの言動や行動が上からになってしまい子どもと対等になれていないから。
- ・つい言うことを聞かせようとしてしまうから。
- ・上下関係になりがち。ハッとさせられる。

きゅうしょく 食べ終わるまで 屋休みなし 悲しいよ

- ・自分が子どもの頃を思い出したので。食べるのが遅くても、苦手なものが1つくらいあっても問題ないと思う。
- ・アレルギーではないからと無理強いしてしまうが、もっとゆっくり取り組みたい。

けんこうに  
自分らしく育つ  
それが子どもの  
権利だよ

- 健康に自分らしく育ってほしい。権利を知ってほしい。食べるものがあり、病院に行くことが当たり前の日本。それが出来ない国もある。

こころのなか  
見えないからこそ  
大事にしよう

- 自分の気持ちをあまり話さない息子と重なったので。
- 子どもながらに気を使って笑っていたり、我慢していることがあるのではないかと、改めて考えるきっかけになったから。
- 子ども自身で言いたくないこと、話したくないこともあると思ったから。

しりたい考えたい  
いろいろ道がある  
こと

- 自分が進みたい道を自分で選んでほしいから。

すきって気持ち  
みとめてほしい  
男どうしても  
女どうしても

- 次男がそうだから。本人は言葉にはしないがみんな受け入れられる環境で良かった。

ねる時に安心して  
眠れる場所がある  
ことって当たり前  
やないんだね

- 毎日寝る時に世界の子どもたちに思いをはせたい。幸せだということにも気付きたい。
- 今世界で戦争がたくさん起きていて、眠れない子どもがいる。もし自分の子どもがそういう状況になったらと思うと不安。
- 30年ほど前の漫画でマンホールチルドレンの話がありましたが、まだ今も温かいお布団にくるまれない子がいるのは悲しい。

のーって  
言ってもいいんだよ  
いやなときは

- 自分がやりたくない、好きではないことを我慢せずに言える勇気。大人になってもなかなか難しいことだと思っています。
- 水泳を嫌がる我が子に、顔を水につけられるようになったら辞めてもいいよとずっと続けさせている。これっていいのかなと思いつつ。

はやすぎる2歳で  
結婚させられる子  
どもがたくさんい  
るの？

- 中学生の子どもが自分の意思でなく結婚させられてかわいそう。
- 貧しさから大人の犠牲にならざるを得ない環境にいる。

ひとりじゃない  
わかってくれる人  
きくと近くには  
いるはずだ

- 分かっているけど子どもは誰が信用できるのか分からない。おとなからのアプローチも必要だと気付かされました。

ふかのうと  
決めつけられないで  
ほしいんだ  
子どもが  
考えたこと

- おとなのものさしで決めつけず、子ども目線の気づきを大切にしたいと改めて感じました。反省。
- 子どもが考えたこと頭ごなしに却下しているかもとドキッとした。

へんな子じゃないよ  
これが私の個性だよ

- みんなと違うことでも堂々とやりたい事を言えるようになってほしいと思う。
- 違いが間違いにならない場であってほしい。様々な考え方に触れて個性との区別を。
- 周りの子と違うと直してしまいたくなくなってしまふから、大切にしたい。

まちがってもいい  
んだよ  
挑戦することが  
大事だね

- 間違いや失敗を怖がらずに何でもやってほしい。

めいっぱい  
遊べることも  
権利だよ

- めいっぱい公園で遊んでいても注意される事があり、めいっぱい遊ばせる場所が欲しい。
- 最近公園で遊んでいても大人に注意される事があり、めいっぱい遊べる公園がないので。

もんだいは  
子どもと一緒に  
解決しよう

- 早く解決したいという気持ちもあって、おとなだけで対応しようとしてしまいがちだと思いました。子どもの気持ちを聞くことを忘れずにいたいと思いました。

レゴも  
ミカーも  
女の子が  
遊んだっていいんだ

- 息子はぬいぐるみやカチューシャなどが好きですが、そういうものと一緒に遊んでいます。

1億8000万人いる  
世界に  
疲れてる子ども

- ・貧しさから大人の犠牲にならざるを得ない環境にいる。

やすもうね  
心が疲れたときは  
それが何より大切  
だ

- ・無理しないで休んだ方がいいと多々思うので。
- ・心は表面には見えないので、気付いてあげないといけないと思いました。
- ・おとなも子どもも疲れたときは休みたいな。
- ・からだは元気でも無理をすればいつか限界がくる。伝えるのが大切。

よい子って  
誰が決めるの？  
よい子を演じるの  
は疲れるよ

- ・みんなと足並みがそろっている大人にとっての「よい子」を無意識に求めてしまいがちだから、しっかり覚えておきたい。

わがままって  
思わないで  
子どもの権利って  
あたりまえのこと

- ・なるべく叱らず子どもに分かるように話をするが、自分の感情コントロールが出来ない時などは叱ってしまう。言葉ってすごく大切。
- ・やりたい気持ちを尊重できるおとなでいたい。
- ・わがままと権利、子どももおとなも線引きが難しいかも。「言ったら怒られる」から「言ってもいい」に出来れば。

子どもの権利  
を「もっと学びあ  
おう」

- ・子どもの権利についてまず知ることが大切だと思った



## ① 最も子どもに伝えたいカルタ

いのちを大切に  
自分を傷つけたく  
なったら話してみ

- ・一番大事なのは幸せに生きることだと伝えたい。
- ・相談出来ず1人で悩むほど寂しいことはないので、いつでも話せる関係性を大切にしていきたい。
- ・いのちを大切に。

えらぶ自由  
子どもにだってある

- ・得意なこと、好きなこと、苦手なこと、嫌いなことは人それぞれ。イエス・ノーを伝えて自分の気持ちを大事にしてほしい。

こころのなか  
見えないからこそ  
大事にしよう

- ・子どもに注意する時否定してしまう事があるが、子どもにも考えや気持ちがあり、傷つけてしまっている事が多いと思うから。
- ・だって言えないことはいっぱいある。言いたいことこそ言えない。目は口ほどに物を言う。

すきって気持ち  
みとめてほしい  
男どうし  
女どうしでも

- ・自分の気持ちに嘘をつかないでいいよ。と伝えたい。

たすけてって  
誰でも言って  
いいんだよ

- ・誰にでも言っていていいし、誰かに言われたら聞いてあげてほしい。お互いを大切に出来るように。
- ・私が子どもの時おとなに頼れなかったので、自分の子には伝えてほしいし、一緒に考えてあげたいなと思いました。

ともだちでなくても  
見てみぬふりしない  
で勇気を出して

- ・変わらず周りに優しくあってほしいから。

なんでも  
相談してみよう  
ひとりでも悩まなく  
てもいいんだよ

- ・なんでもないって言わず何でも話してほしいから。

にげたっていい  
逃げることも大切

- ・どうしようもない時は逃げてもいいと思う。自分を一番に大切にすることも大事。ありのままできてほしい。
- ・何事にも最後までやり遂げようとする真面目さが、時に自分を苦しめているかもしれない。

ぬけ出そう  
苦しい関係から  
自分を守るために

- もし苦しいことがあったら、我慢することがえらい、当たり前と思わないでほしい。自分の気持ちが一番。
- 上の子は嫌とあまり言えないので、苦しいこと、辛いことから抜け出そうとしてもいいんだよと伝えたい。

ノーと言っても  
いいんだよ  
いやなときは

- 思っていることを言い出せず我慢してしまうので嫌な時は言ってほしいと思いました。自分の気持ちを素直に出してほしい。遠慮せずに。
- ノーと言うと嫌われてしまうと思っている。我慢してほしくない。

ひとりじゃないわ  
かってくれる人きつ  
と近くにいます

- 色々な人がいるけれど、分かってくれる人、仲良くしたいと思える人はいるはずだから。

ふ可能と決めつけ  
ないでほしいんだよ  
子どもが考えたこ  
と

- おとなや周りが不可能と言っても、諦めないでやってみてほしい。自分で考えられる道を見つける力を。
- 出来ないと決めつけてしまうことが多いので、出来なくても見守ってあげたいと思う。

へんな子じゃないよ  
これが  
私の個性だよ

- 発達に心配があるので、これから先、他の子と比べられて傷つくこともあるかもしれない。でもみんな違っていいんだよ、それもあなたの個性だよと伝え、好きなこと、やりたいことをたくさんやらせて伸ばしていきたい。

めいっぱい遊べるこ  
とも権利だよ

- 子どものうちに、好きなことをたくさんしてほしい。ストレス発散。
- おとなの基準や都合で、遊ぶ時間をコントロールしてしまっていた。遊ぶことももっと大切にする必要があると思った。
- 子どもは遊びが仕事。

もんだいは  
子どもと一緒に  
解決しよう

- 親と一緒に悩んで、相談できる存在だと伝えたい。
- 子どもにも心がある。子どもの心、言葉に耳を傾けて、一緒に悩み考える、良い方向へ。

りょうり、洗濯、  
皿洗い  
男の子が手伝うのも  
もうあたりまえ

- 今も手伝ってほしい時があるけれど、将来のために経験してほしい。

ゆるせない  
子どものいやがる  
ことをするおとな  
声をあげよう

- おとなにいやなことをされたら、周りに相談できる環境で会ってほしい。

よい子って  
誰が決めるの？  
よい子を演じるの  
は疲れるよ

- つい言うことをきく子どもがよい子と思いがちだけれど、そういう意味で「良い子」とは言わないよ



## 参加された方から

### ばら組 保護者

『大人と子どもどっちが上でも下でもないよね』カルタを読んでハッとさせられました。普段の生活を振り返ると、我が子との対等な関係への意識は低かったのではないかと思い知らされました。良かれと思ってやっていること、将来のためにやっていることを子どもはどう感じ、どう思っているのか。先生がおっしゃっていた『今を生きる子ども』とともに、今を大事にしたいと思いました。講演会でのお話を受けてから、子どもの意見によく耳を傾ける自分がいて、自然とみんなが上機嫌です。大変有難い機会でした。ありがとうございました。

### ばら組 藤井尚美

子どもの権利を深く考えた事がなかったのですが、子どもの権利条約を分かりやすく親しみやすくしたカルタを通して、気付かされる事がたくさんありました。

「不可能と決めつけないでほしいんだ子どもが考えたこと」。私はこちらの札が刺さりました。プロのサッカー選手になりたいんだと言ったとき、口には言いませんが無理だろうとすぐに思ってしまったり、入園当初今日はパンツで行く！と言っていました私は失敗しちゃうだろうと思っていました。でもそのまま失敗せず帰って来て2人で喜んだことがありました。頭ごなしに決めつけず、応援できる母でありたいと思います。

### ばら組 今井理栄子

甲斐田先生の貴重なお話、ありがとうございました。

今まで意識していなかった「子どもの権利」を、カルタを使って楽しくわかりやすく学ぶこと、考えることができました。

お話を聞いて、普段から子どもの目線で考えることを忘れないようにしなければと思いました。

特に「子どもは、未来ではなく、今を生きる存在である。未来のために準備する存在ではない。」という言葉が印象に残りました。

つい将来のために今こうしたほうが良いのだ、と大人の意見を言いがちですが、子供の意見もしっかり聞いて、共に考え答えを出していこうと思いました。

役員、分科会の皆様、良い時間と学びをありがとうございました。

### ばら組 高橋美央

今回の講演を聞いて、2つの視点でハッとし、考えさせられた。

まず、自分の子育てについて。

「子どものため」と言いつつ、本当は「自分にとって都合の良い子」を求めて押さえつけているのではないか。「子どものため」に良かれと思ってやっていることは、本当に子どものためになっているのか。

毎日が反省と、何が正解かわからない迷いの中、自分に余裕がないと必要以上に怒ってしまうこともある。そしてまたそれも反省。

でも、「子どもは育てる存在ではなく、一緒に育っていく1人の人間」だと認め、それを忘れなければ、もっと違う子どもとの関わりを目指せるのではないか。

「私がこの子を育てあげねば」とか、「この子の将来のために少しでもいいことを」と、気負い過ぎていたのかな、でもこれが子どもの「今」にとって本当にいいことなのか?と、一歩引いて考える視点が生まれたことは、今後の子育ての大きな助けになると感じた。

生まれたばかりの頃はただただ無事に健康に生まれてくれたことが嬉しかった。それ以上何も望むことはない。今一度その気持ちを大切に思い出したいと思う。

また、「すべての子どもには権利があって、尊重されるべき存在」だという再認識ができた。

日々の生活や子育てで、つい「子どもの幸せ」や「子どもの権利」を、自分の子どもという狭い範囲でしか捉えていなかったと気づいた。

そうではなく、「私たちの宝である子どもたちを、社会みんなで大切に大切に育てていく」という視点。

そしてその視点や考えが広がり、社会全体で子どもを大切にし、みなで育てていくという温かい輪が当たり前になったら、日本は本当の意味で豊かになると感じた。

そのための一歩、自分には何が出来るか、考えて行動できるような大人になりたい。

今回は、このような素晴らしい考える機会をいただき、感謝いたします。

ありがとうございました。

子どももひとりの人として、さまざまな権利を持っていること。そんな当たり前でありながら、忘れてしまいがちなことを改めて心に留めるととても良い機会になりました。夫にもぜひ聞いて欲しい内容でしたが、なかなかうまく説明することができませんでした。とても為になる講演会でしたので、参加できなかった方に配信などがあれば良いなと思いました。

### すずらん組・ばら組 牧野陽子

子どももひとりの人として、さまざまな権利を持っていること。そんな当たり前でありながら、忘れてしまいがちなことを改めて心に留めるととても良い機会になりました。夫にもぜひ聞いて欲しい内容でしたが、なかなかうまく説明することができませんでした。とても為になる講演会でしたので、参加できなかった方に配信などがあれば良いなと思いました。

講演を聞く前は難しい内容かなと思っていましたが、甲斐田先生の分かりやすい説明と、かるたやクイズなど、実際に参加することで理解を深めることができました。  
 子供の権利について普段あまり考えることはありませんでしたが、子供の声を聴くことでコミュニケーション能力が付き、自己肯定感が高まり、相手の権利を守り、それらにより民主的な社会つくることにつながると、改めて考えることができました。  
 今まで朝時間がなく私その日着る服を選んでいましたが、さっそく我が家でも娘に選んでもらうと、えっいいの？と少し戸惑いながらも嬉しそう表情で選ぶ姿を見て、もっとたくさん子供の声を聴いていこうと思いました。

今日は貴重なお話をありがとうございました。  
 当初「子どもの権利」と聞いて、難しさを感じていましたが、甲斐田先生からのお話やカルタ取りを通じて、他の保護者の方々とも考えを共有することができました。  
 良かれと思って子どもの意思をあまり尊重せずに導いてしまっていたことや、きちんと息子の声に耳を傾けられていただろうかと改めて私自身の言動についても考えるきっかけをいただきました。  
 今日学んだ事を心に留めて、息子にもきちんと伝えていきたいと思います。

保育講演会、ありがとうございました。  
 子どもに対する接し方に悩み、どういう言葉がけをしたらいいのか、自分自身のキャパが溢れてしまうと、子どもに感情的に叱ってしまう。そんな日々に、これでいいのか？  
 子どもの自己肯定感が下がってしまうのではないかと悩みながらも、でも親だって人間だし、完璧な人なんて居ないと、開き直っているところがありました。  
 今回参加させていただき、子どもの権利がこれほどたくさんあることにまず驚きました。そして、一つ一つがとても大事なことだとも思いました。自分の子どもの頃に、子どもの権利について知っていたら、おかしいことだと気づけたことも多くありました。  
 自分の子どもには、自分たちの権利はたくさんあり、しっかり守られる世界であり、これからたくさん出てくる悩みを、きっと助けてくれることだとしっかり伝えたいと思いました。  
 甲斐田先生！  
 素敵なお話し方で、私たちにもわかりやすい内容にしてくださり、本当にありがとうございました。

この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。  
 甲斐田先生のお話やグループ内でのワークを通して多くの気づきを得る事ができ、子育てを振り返る良い機会となりました。子どもの声を聞きすぎると我儘になるのではと頭をよぎることが私自身もありましたが、人の意見を聞くようになり他の人の思いを大切にできる子に育つというお話は大変印象に残りました。  
 子育て数年目、周りに助けられてばかりの母親ですが、子供の意見を尊重し耳を傾ける事を心に留め、日々愛情たっぷりに「今」を大切に過ごしていきたいです。そして子供自身も自分達の権利を理解し自分らしく生きられるよう、今日の学びを伝えていきたいと思います。

卒園生 アネモネ・ゆり組 山口梢

テーマがこどもの権利だったので難しい内容かな？と少し身構えて参加しましたが、実際参加してみると、甲斐田先生のお話はとてもわかりやすく、こどもがこどもの権利を知る大切さを知り、かけがえのないこどもたちをまもらなければいけないと感じさせられました。カルタを通して同じテーブルの保護者の方と感じたことなどを共有でき、とても豊かな時間を過ごすことができました。家に帰って、我が家のこどもたちとこどもの権利について話し合いたいと思います。このような素晴らしい気づきの機会を卒園後も与えていただきありがとうございました。

卒園生 アネモネ・ゆり組 比護友子

卒園後もこのような機会を与えて頂き、感謝申し上げます。  
 「未来」より「今」が大事と言う言葉が特に印象深く、念頭に置き、子どもの声をきちんと聴く日々を過ごしたいと思います。  
 有意義な時間をありがとうございました。

元職員 谷内うらら

なかなか聞く事が出来ない講演会いつもありがとうございます。  
 昔も今も母の悩みは変わらないなーと参加してるお母さん達は何か必ず気づきを頂ける考えるきっかけをもらえる、参加出来ないお母さん達は本当に残念ですね。子ども達はもっと愛されて、守られて育ってほしいと願わずにはいられません。この頃のニュースを見ていると辛くなりますね。心が痛みます。  
 野毛山幼稚園！本当にこれからも子ども達の為に、父、母の為に、頑張れ〜と声援👏を送りたいです。昔からずーと心に残る、考えさせられる、背中を押してくれる、気づきをくれる、講演会を開いてくれて、他を探してもそうそうないと思います。このカルタも、まとめも、ちゃんと読んで子どもと一緒に育って欲しいね。頑張っ〜